



絵札点は弱くとも…

絵札点だけでハンドの強さを計ってはいけない、オフENSするときとディフェンSするときを別けて考えねばならないと前回話しましたが、今回は同じ事でも別な面からの話をしましょう。ディストリビューションがアンバランスになると取れるトリック数に大きな影響が出てきます。次のハンドは007シリーズのスパイ小説「ムーンレイカー」で出てくる有名なハンドで

♠ 10432				
♥ 10873				
♦ -				
♣ 97643				
♠ 98765	N	E	♠ AKQJ	
♥ 96542	W	E	♥ AKQJ	
♦ J102	S	S	♦ AK	
♣ -			♣ KJ8	
♠ -				
♥ -				
♦ Q987654				
♣ AQ1052				

主人公の007ジェームズ・ボンドがSで7CXXをビッドして、いつもいかさまをしていたEの敵役のドラックスを懲らしめて大金を巻き上げるものです。実際NS側には絵札で8点しかありませんが7Cはダウンさせようがありません（なおWの7Hも7Sもメイクしますが、Eでは6までしかできません）Eは31点も持っていますがCトランプでは1トリックも取れません。これは極端な例ですが、絵札点だけで考えては何トリック取れるかはわからないという良い例です。このハンドでグランドスラムができる理由は、①良いフィットがあること②長いスートがあること③ボイドでのコントロールがあること④フィネスが利いていることの4点につきます。アンバランスハンドの強さを考えるときは絵札点では計れないことに注目してください。

学生上がりのブリッジプレイヤーは、多くの方が経験していると思いますが、絵札点が少ないけれどスラムができるようなハンドを見つけ出してビッドすることに無上の喜びを感じるものです。しかしだからといって、いつもいつもスラムをビッドしてはできないスラムにしょっちゅう行ってしまうことになりかねません。このような成功失敗の数限りない経験を通じてハンドの評価を学んでゆくのです。

一般に少ない絵札でスラムを考えるとときには、つぎのようなチェックをするとよいでしょう：

- 良いフィットがあるか？
- トランプクオリティがよいか？
- セカンドスーツにトリックがあるか？
- それ以外のスーツにコントロールがあるか？

絵札点が多くあってスラムに行くのは当たり前で、それ以外のときにも常にこのようなチェックをするように心がけてください。